

# 対 联 に つ い て

横 山 宏

中国においては旧正月になると、軒先や門前および屋内の柱などに赤い細長い紙に目出たい文字や句を墨で書いたものを貼るならわしがある。これを「春联」という。日本における門松のように目出たいものとされ、各戸はきそってこれを貼る習慣があった。「春联」とは、中国においては旧正月を春節というためこの名が生じたものである。「联」とは対偶の意味であり、左右が調和して対し、字数も等しい対句を意味している。

その起源は明の太祖あたりからといわれている。すなわち、“陳雲胆の『簪雲樓雜説』に「春联之始設自明太祖始，帝都金陵除夕伝旨公卿士庶家門上須加春联一幅」とあり，また，明の太祖は陶安の門に貼るようにと「国朝謀略無雙士，翰苑文章第一家」との書を賜わったことが「列朝詩集」にもものっている”。<sup>(1)</sup>

また，春联の形式は「昔は五・七言の詩句を用いていたようであるが，朱子以後は散文的句法を用いたものがあられ，四字句，五字句，七字句が最も多く，六字句，八字句のものもあり，長いのは十二字，十六字等に及ぶものさえ出て来た」<sup>(2)</sup> とのべられているように，その形式は韻文から散文へ変化し，字数も任意に考えられ，その人，その家に適当した句が選ばれた。また，1911年の辛亥革命以後は口語体のものも現れはじめた。春联の種類についてみると貼る場所によって，門心，框対，横披，抱柱，春条，仏対などとその名を異にしている。まず，それらについてみよう。<sup>(3)</sup>

門心とは，おもて門の両側に，幅 30 cm ないし 45 cm，長さ 1.20～1.30 cm の赤い紙に墨で対句「宜入新春 万事順心」とか「雲献吉祥 星联福寿」など

と書いたものを貼るものをいう。

框対とは、大門対あるいは街門対ともいい、おもて門でも部屋の入口にでもその両側に幅12～15cm、長さ1.20cm ぐらいの大きさのものを貼るものをいう。春联とよばれるのはふつうこれである。

横披とは、おもて門、部屋の入口の上部に横に貼るもので、「五福臨門」とか「慶吉満堂」とかの四字句が一般的である。これはその貼られる位置から対でなく、単一である。

抱柱とは、室内の出入口に近いところにある二つの柱に貼るものをいう。

春条とは、部屋の柱などに貼るもので、対句でないときもある。

仏対とは、中国では神仏を総称して仏というので、神棚・仏壇の両側に貼るものをいう。

これらの伝統的な春联は朱子以前においては五言または七言の韻文の詩句が多かったが、それ以後はさきにふれたように必ずしも五言、七言に限らなくなり、自由な表現形式が採用されるようになった。民国以後にはその傾向はさらに強まり、その表現も口語調へ大きな変化をみせた。

1949年、中国は社会主義国家として生れかわったことは周知のことである。それにともない、社会は急激に変革され、人の考え方も大きく変化していった。その時代において、この民間に伝わる春联がどのように変化したかをあきらかにし、それを通して中国の社会主義建設の状況をみていきたい。

註(1) 服部隆造「春联」、中国語学研究会編中国語学事典7『中国語研究資料』16ページ、江南書院、1957年11月。

(2) 同上、16ページ。

(3) 同上、16ページ。

# 1

解放後の春联については、鮫島国三著『春联考——春联に見る新中国の姿

——』<sup>(1)</sup>がある。この著書の底本となったものは、河北人民出版社の『新春联』(1956年版)である。

この内容についてみると、『春联考』の筆者は「全篇これ政策のられつであるといっても過言ではない」<sup>(2)</sup>とのべておられる。あきらかに、春联を現在の社会主義建設に結びつけようとの努力がよみとれる。つぎにあげるようなものがほとんどである。

生産保証質量      生産は質を保証し、  
操作注意安全      作業は安全に注意。

工業強大国家富      工業が発展すれば国はとみ、  
幸福生活有保証      幸福な生活が保障される。

社裏人多好弁事      協同組合は人手が多く仕事はしやすく、  
万衆齊心定勝天      みんなが心を合せれば自然に打勝ちうる。

このような春联がほとんどを占めているなかで、新年をむかえるよろこびをそのまま表現したようなものもいくつか見ることができる。もちろん、これらも見方によれば社会主義建設を目ざす中国ならでのものであると考えられないこともない。たとえばつぎのようなものをあげることができる。

村村鞭爆響      どこの村にも爆竹の音ひびき、  
家家光景強      どこの家でも暮しむきはよい。

春節处处風光好      正月はどこもかしこもたのしく、  
新年家家氣象新      新年はどこの家でもめでたいかぎり。

これらの「政策」から離れたと考えられるものは「春联考」に収録されたも

の全体からみるときわめてすくなく総数 239 のうち13を数えるにすぎない。

つぎに、それぞれの字句数の数をみてみよう。<sup>(3)</sup>

五字句	7	十一字句	17
六 ㄥ	17	十二 ㄥ	32
七 ㄥ	55	十三 ㄥ	7
八 ㄥ	32	十四 ㄥ	9
九 ㄥ	17	十五 ㄥ	5
十 ㄥ	38	十六 ㄥ	2

この表からみると、中国の伝統的詩句の影響を受けているためであろうか七字句がもっとも多くあらわれているが、それとともに、八、十、十二字句のものもそれぞれ30をこえており、ほかのものもふくめて春联の表現形式はきわめて自由なものであるということができよう。

つぎに、この『新春联』の目次を見てみよう。

1. 一般部門
2. 農村用部門
3. 工鉦企業用部門
4. 機関および学校用部門
5. 横額用

これらの分類を『春联考』の筆者鮫島国三教授は、最後の横額用をのぞいて対句の部分をやより一層細分化され、19部門に分けられた。すなわち、庶民生活を敍したもの（44句）、家庭生活（9句）、5ヵ年計画（3句）、工業化（6句）、労働（6句）、先進経験（8句）、科学技術（6句）、生産と建設（21句）、経済建設（3句）、協同化（10句）、教育・文化（14句）、衛生・医学（9句）、民主作風（13句）、国防と治安（8句）、台湾解放（4句）、増産節約（11句）、農業（52句）、水利建設（7句）、造林（5句）などに関係あるものにそれぞれ分類された。その中心は工業と農業の発展を主題にしたものである。このことから

この書名が『新春联』と“新”の字が付せられている意味が充分にうなづける  
ところである。

だが、この底本の対句を詳細にみてみるとつぎのことがわかる。この『新春联』が出版された1956年当時の中国経済の発展の段階は、第一次五ヵ年計画は  
繰りあげ達成され、また商工業においては公私合営が個別企業の合営の段階から  
企業別合営へとすすんでおり、農業においては互助組から発展して初級生産  
協同組合から農業の高まりをむかえ高級生産協同組合へとすすみつつあり、工  
業・商業・農業ともに社会主義化が大きく前進したときであった。この時代的  
背景が感じられるものがどうも少いようである。すなわち、工業においても、  
農業においてもひたすら増産をうたい、それによって国家が強力になり、人民  
の生活が幸福になることのみを強調している傾向がある。たとえば、つぎのよ  
うなものをあげることができよう。

実現国家工業化 国家の工業化が実現すれば、  
国强民富保和平 国は強まり、民は豊かに、平和が保たれる。

国家実現工業化 国家が工業化を実現すれば、  
文化教育更繁荣 文化・教育はますます発展する。

發揮勤勞智慧 勤勞の智慧をはたらかせ、  
建設幸福生活 幸福な生活をきずこう。

努力節約増産 増産節約につとめよう、  
為了幸福明天 幸福なあしたのために。

今天種下勤勞種 きょう勤勞のたねまけば、

明天開出幸福花 あす幸福の花ひらく。

ここでもっと強調されるべきは工業においては国営企業の優位性、公私合営の重要さであり、また農業においては協同化を前面に強く押出すべきであったのではなかろうか。

註(1) 鮫島国三著『春联考』——春联に見る新中国の姿——1958年。

(2) 同上 5 ページ。

(3) 同上 11 ページ。

## 2

この『春联考』の底本『新春联』と同じように対句を集めたものの一つとして『新对联』（1965年北京出版社）がある。この本の標題は「春联」ではなく「对联」となっているのは、これまで旧正月のみに使用せれるものとしてきたこれらの対句が、その使用期間を正月のみ限定せず年間を通して使用されはじめていることを示しているものと考えられる。すなわち、伝統的な春联の形式を社会主義建設のために全面的に採用、活用していることが示されているわけである。まずその字句数をみてみよう（横額用をのぞく）。

	一 般 用	農 村 用	工業商業 サービス	民 兵	計
4 字 句	2	4	0	2	8
5 〳	12	8	1	2	23
6 〳	6	5	5	3	19
7 〳	32	11	4	1	48
8 〳	20	11	8	3	42
9 〳	18	5	4	2	29
10 〳	20	19	7	1	47
11 〳	16	21	4	1	42
12 〳	12	12	2	2	28
13 〳	5	3	0	1	9
14 〳	2	1	2	0	5
15 〳	0	4	0	0	4
16 〳	0	1	0	0	1

17    0    1    0    0    1

ここでも、まえにあげた『新春联』のときと同じように、7字句が最も多く数えられる。それと同時に表現が潤達になったためか、4字句や17字句があらわれている。その目次をみるとつぎのようである。

1. 一般部分 (145)
2. 農村部分 (106)
3. 工業・商業・サービス業部分 (37)
4. 民兵・軍人の家族・遺族部分 (18)
5. 横額用 (44)

これらの分類は、前掲書の分類に近いものと考えられるが、両者の大きな差異は第3の部分の指摘することができる。ここであげられた工業・商業・サービス業は56年の『新春联』の工鉱企業部分と比較するとより細分化されているだけでなく、経済の発展にともない、その生産物をいかに分配するか、とくに人民にいかに奉仕するかについての考えかたのあらわれとみるべきであろう。また解放後から中国の社会主義建設の中心となった工業優先主義から1960年代初頭から採用された「農業を基礎とし、工業を主導とする」基本方針がここにもはっきりとあらわれている。

支援農業生産    農業生産を援助し、  
促進城郷交流    都市と農村の交流をすすめよう。

発展社会主義商業    社会主義商業を発展させ、  
做好工農生産橋梁    工農業の生産のかけはしを築こう。

充分供応人民需要    人民の需要に充分こたえ

努力改善経営作風 経営の作風改善に努力しよう。

このような農村援助を内容としたものとともに、その具体的な方法としてはつぎのようなものをあげることができる。

学習背簍商店 「背簍商店」に学び

発揚革命精神 革命精神を高めよう。

背簍商店とは山間僻地の人びとの需要にこたえるため、物資を背おっていく商業担当者をいう。

上山下郷送貨登門満足群衆需要

南來北往交流物資促進經濟繁榮

山へ里へ物資をとどけて大衆の需要にこたえ、

南へ北へ物質をおくり經濟繁榮高めよう。

目次からみた特徴についていくつかの例をあげたが、つぎに 65 年版「新対聯」を分類してみよう。

農村に関するもの	82
大衆の生活一般に関するもの	51
毛沢東・共産党	28
解放軍（うち雷鋒一八）	26
三面紅旗	23
増産節約・技術革新	22
革命伝統	14
商業・サービス	14
階級闘争	12
労農同盟	10
自力更生	9
工 業	6



	389
社会主義教育運動	4
後継者養成	2
衛 生	2
国際連帯	1
	計 306

第一に位するのは農村に関するものであり、まえにのべたような農業基礎論の反映とみるべきである。これまでの工業関係がかなりの比重を占めていたのと比較すると大きな変化とみていいであろう。

公社春常在      人民公社はいつも春のよう、  
人民楽無窮      人民のたのしみきわまりなし。

人民公社家家楽    人民公社のすべての家はみなたのし、  
祖国河山处处春    祖国の山河すべて春。

このような農村を扱ったものがきわめて多いのは注目すべきである。このような大きな変化と同時に、より注意すべき点は、毛沢東・共産党に関するものの増加である。「新春联」においてはわずか四句しか存在しなかったものがこの「新春联」においては二八句になっている。この時代に入ると毛沢東の役割はこれまでにないほど重要なものとなり、中国の社会主義建設に欠くべからざるものになったことを示すものであろう。

遵従毛主席教導    毛主席のおしえに従い、  
跟着共産党向前    共産党とともにすすもう。

一心跟着共産党    ひたすら共産党につづき

万代不忘毛主席 永遠に毛主席を忘れない

解放軍に関するものは『新春聯』においては八句あったが、『新對聯』では二六句におよび、そのなかには生命をなげ捨て人民の生命を守った解放軍兵士雷鋒に関するものが八句ふくまれている。1959年の廬山會議において当時の国防相彭德懷が解任され、林彪がその後任に就任したことは周知のことである。林彪は解放軍を毛沢東思想學習の大学校とするため、毛沢東語録を編集し、60年解放軍内部においてその學習を開始した。それ以後の解放軍は、毛沢東思想の体得に一層力をいれ、その思想を活用し、戰略・戰術の面にも具体的にとり入れるようになった。その一例が雷鋒であり、新しい英雄像としてその死は高く評価され、また広く大衆にも伝達された。この雷鋒につづいて新しい英雄はつぎつぎにあらわれた。王傑、麦賢得、劉英俊、歐陽海などの名をあげることができる。

雷鋒は東北地区（旧満州）のある部隊に勤務していたが、1962年不慮の事故で死亡した。遺品整理のとき発見されたかれの日記は毛沢東著作の學習の過程が刻明に記されており、それによりいかに自己研鑽につとめたかがよくわかり、部隊内部で大きな話題となった。その主要な点は、自分の持ち場をよく守りながら、平凡ではあっても「錆ることのない革命のネジ釘」になろうとしたことである。

王傑は民兵十二名と地雷工作をおこなっていたとき、その地雷が爆発を起した。そのとき、自ら地雷のうえにうつぶせになり、民兵たちを生命の危険から守り抜いたのである。死後その日記は出版されている。<sup>(4)</sup>

劉英俊は1966年3月のある日、黒竜江省佳木斯市において他の兵士たちとともに三輦の砲車を馬にひかせていた。かれの御していた馬が自動車のホーンにおどろいて暴走し、ラッシュアワーの人の群れに突進した。かれは馬を路地へひきこみ重大事故を防いだが、砲車のまえには六人の子供が逃げ場を失って立

ちすくんでいた。そこでかれはたづなを力まかせに引いて馬もろとも砲車もその場に倒して子供たちを救ったが、かれ自身は砲車の下敷となり死亡した。死後、1962年解放軍参加以来の毛沢東の著作の実際とむすびつけての学習、運用ぶりが記されたかれの日記が公開された。そこに示されたものは「共産主義的人間」形成へのきびしい追求であった。

堅持四個第一 「四つの第一」を堅持し、

発揚三八作風 「三八作風」を発揚しよう。

「四個第一」とは、林彪国防相が1960年10月に人民解放軍高級幹部会議で思想工作の重要性を強調したなかで指示したものをいう。

- (1) 人と物との関係では人の要素が第一。
- (2) 各種の工作与政治工作の関係では政治工作が第一。
- (3) 政治工作のなかでは思想工作が第一。
- (4) 思想工作のなかでは生きた思想が第一。

この指示とともに毛沢東思想を前面に押出す論文や演説をおこなった。

さらに政治思想、三八作風、軍事訓練、生活管理の四つを中隊内部でよくする「四好中隊運動」を展開した。そのうちの「三八作風」とは三つの句と八つの文字で示された内容を日常の生活態度とすることである。

「確固とした正しい政治方向」「困苦欠乏に耐え、質素をむねとする活動態度」「弾力性をもち機動力ある戦略・戦術」と「団結、緊張、厳粛、活発」をさす。これが人民解放軍の戦闘・活動の基本原則であり、この軍の伝統を一般大衆も見なうべきものとされるようになった。

錦綉河山添秀麗 うるわしの山河にうつくしさを加える、

英雄儿女学雷锋 英雄的子弟は雷锋を学ぼう。

学習雷锋克己利人美德 雷锋の自己をころして人に尽す美德を学び、

継承延安艱苦奮闘精神 延安時代の艱苦と奮闘精神を引継ごう。

三面紅旗は、1958年にかかげられたスローガン——総路線・大躍進・人民公

社——であった。この三面紅旗は1959年からの三年連続の自然災害のおりには、かなりの反対にもかかわらず守り抜かれ、毛沢東の社会主義建設についての考えかたの正しさを事実をもって示した基本的政策を意味するものである。

三面紅旗光芒万丈 三面紅旗の光あまねし

六億人民團結一心 六億人民心は一つ。

総路線如灯塔照耀 総路線は灯台が照らすよう、

新中国似紅日初昇 新中国は初日の出がのぼるに似たり。

雄文四卷指明勝利路 毛沢東選集四巻は勝利のみちをさしめし、

紅旗三面高唱躍進歌 紅旗三本躍進のうたを高唱す。

増産・節約については『新春聯』とも同じである。増産・節約は浪費への反対もふくまれているわけだが、これはふるくは1951年からはじまった三反・五反運動のなかにもあらわれていたことであり、社会主義建設のために資金の必要なことは論ずるまでもない。六億の人間が肉一斤節約すれば六億斤の節約になるのである。このため、増産に力をつくすとともに節約にも力をいれているわけである。また、増産には技術革新も必要である。

勤儉是美德 勤儉は美德であり、

労働最光栄 労働が一番光栄である。

養成勤労美德 勤労の美德をやしない、

樹立儉朴作風 節約質素の作風をうちたてよう。

増産全凭両只手 増産は双手がたより、

節約何妨一厘錢 節約は一厘でもやりぬこう。

群衆運動卷起増産巨浪 大衆運動は増産の大波をおこし、  
技術革命猛攻科学尖端 技術革命は科学の先端を猛攻する。

つぎに革命伝統をみてみよう。中国共産党は1921年7月1日、上海において成立した。その後労働運動の指導、北伐と活躍をつづけたが、1927年4月12日の国共分裂以後は帝国主義、封建主義、官僚資本主義の三つの大きな障害を打ちやぶるために活動をつづけ、抗日戦争を戦いぬぎ、中華人民共和国の成立へ導いた輝かしい伝統をもっている。その伝統を守り、また次代の若者たちにバトンタッチをすることを最近のプロレタリア文化大革命は目標の一つに数えている。その意味ではこれに関係あるものをかかっていることはきわめて注目すべき点であると考えられる。

継承光榮革命伝統 光榮ある革命の伝統をうけつぎ、  
発揚艱苦奮闘精神 艱難にもめげぬ奮闘精神を発揚しよう。

全心全意総為人民服務 すべてをささげて人民に奉仕し、  
再接再励永葆革命青春 より努力して革命の若さを永遠に保とう。

樹立不断革命思想 不断革命の思想をうちたて、  
堅持長期奮闘精神 長期奮闘の精神を守りぬこう。

干革命不怕千難万險 革命をやるにはあらゆる困難を恐れず、  
搞建設何惧山高水深 建設をおこなうには山の高さ水の深さをおそれない。

つぎに商業・サービスの点についてみれば、さきにあげたように『新春联』においてはこの部分がほとんど欠如していたが、『新对联』においては目次においてこの部門がひとつの分類を占めており、商品の流通またサービスの向上にいかん力をそそいでいることをうかがい知ることができる。なおこの商品の流通・サービス向上の対象は人口の圧倒的多数を占める農民あり、これは農業支援および、都市と農村との物資交流の促進により、工業の発展を促がそうという姿勢があきらかに示されている。

商品調剤合理    商品の配給は合理的に、  
物資供应及時    物資の供給は必要なときいつでも。

一切為顧客着想    すべて客のために考え、  
万事從生産出發    よろず生産から出発する。

満足人民多種需要    人民の各種需要をみだし、  
拡大城郷物質交流    都市農村間の物資の交流を拡大しよう。

階級について表現したものがかなりの数におよんでいるのは、これまでは初歩的に社会主義が完成し、より発展する段階においては階級は消滅し、階級闘争は不必要になると考えられてきたが<sup>[2]</sup>、現在では、この段階に達したからといって階級が完全に消滅したと考えるのはあやまりであり、国内に存在した旧地主、富農や資本家たちのなかにはその復活の機会をうかがう者があり、また大衆にたいしてもさまざまな働きかけがおこなわれ、危険な方向に陥る可能性が非常に高く、また、国外からの働きかけもかなり行われており、階級闘争はひとときもゆるめることはできないとされるようになった。このため、階級闘争についての对联もかなりの数に達している。

牢記階級恨      階級のうらみ忘れずに、  
 永做革命人      永遠に革命的人間になろう。

提高革命警惕      革命の警戒心を高め、  
 不忘階級闘争      階級闘争を忘れまい。

貫徹階級路線      階級路線をつらぬき、  
 発揚革命精神      革命精神を高めよう。

堅決進行社会主義革命      社会主義革命をだんこおしすめ、  
 徹底肃清資産階級思想      ブルジョア思想を徹底的に清めよう。

労農同盟を主題にしたものが数多く見うけられる。これは中国革命が両者の  
 堅い団結でなしとげられた歴史をもち、現在においてもこの労農同盟は必要欠  
 くべからざるものとなっているためである。

城郷互助如魚水      都市と農村の助け合いは魚と水、  
 工農联盟似弟兄      労働者と農民との結びつきは兄弟。

加強民族団結      民族の団結を強化し、  
 鞏固工農联盟      労農同盟をつよめよう。

重視群衆利益      大衆の利益を重視し、  
 鞏固工農同盟      労農同盟をつよめよう。

工農联盟凱歌高奏      労農同盟勝利のうた高らかに、  
 民族団結幸福無疆      民族団結すれば幸福きわまりなし。

自力更生。この更生とは日本語での更生とはいささか意味が異なり、自力で困難を克服し、活路をきりひらくことである。旧中国の半植民地状態時代からこのスローガンは存在していた。さいきんでは、1960年、ソ連の中国に対する借款援助が停止状態に陥り、同年7月には中国在住のソ連技術者の一斉引揚げと、技術協力協定の破棄など困難な事情に加えてはげしい自然災害も加わり、社会主義建設が大きな障壁にぶつかった時代にこのスローガンが再びクローズアップされた。

艱苦奮闘勤儉建国 苦しみにたえて頑張り節約して経済建設をなしとげ、  
自力更生奮発図強 自力更生奮発して強化しよう。

自力更生雄心創偉績 自力更生の決意大きな成績をあげ、  
奮発図強大志立奇功 奮発強化の大志は立派な功績をあげる。

艱苦奮闘繼承光榮伝統 苦しみにたえて頑張り栄えある革命の伝統をうけつぎ、  
自力更生発揚革命精神 自力更生革命精神を高めよう。

大慶大寨自力更生双榜樣 大慶大寨は自力更生の二つの手本、  
克勤克儉艱苦奮闘好作風 努力節約苦しみにたえて頑張るよい作風。

工業については、その数は『新春联』と比較すると大幅に減少している。しかし、これが中国の社会主義建設の中心であることには変わりはなく、工業の発展を目標に各方面の努力が払われているのである。だが、注意すべきことは工業のみを發展させ、生産を高めれば、それに応じて社会が豊かになり、「能力に応じて働き、労働に応じて分配される」社会から、「能力に応じて働き、必要に応じてとる」社会へ容易に移行できるとは考えていない点である。工業



の発展、生産の増強は必要であるが、それだけでは不十分であり、同時に人間の考えかたを変革することが必要であることが強調されている。だがこの『新対联』における工業に関する対联ではそれらのことにふれていないようである。

革命不落人後      革命は人に負けず、  
労働定要争先      労働は必ず先頭を争う。

完成生産計画      生産計画を完成し、  
遵守操作規程      作業規程を遵守しよう。

人在車間眼望五洲斗争烽火  
身居工廠胸懷四海革命風雲

人は工場の現場にあっても眼は世界の革命ののろしをのぞみ、  
身体は工場にあっても胸には世界の革命のあらしをいただく。

1963年、農村にたいして社会主義教育運動が開始された。これは、三年連続の自然災害により三自一包（1960年代初期において人民公社化にたいする問題があらわれ、自留地をできるだけ多くし、自由市場を多く作り、個人が損益に責任を負う企業単位を多くし、農業生産を各家庭に請負わせる）の風潮があらわれ、農村に旧地主、富農などの一部の者が復活をたくらんでいた。これらをたちきるため1963年5月20日「当面の農村活動のいくつかの問題についての中国共産党中央委員会の決定（草案）」が発表され、人民大衆とくに貧農・下層中農のなかで階級的教育と社会主義教育をすすめ、プロレタリア思想をおしひろめ、ブルジョア思想を一掃せしめ、人民内部の矛盾と敵味方の矛盾を正しく処理することを目標にした。これは1966年8月からクローズアップされたプロレタリア文化大革命の基礎をなすものであり、注目すべき点である。

開展社会主義教育運動 社会主義教育運動をくりひろげ、  
 進行興無減資階級闘争 プロレタリアートをおこしブルジョアジーをうちたおす  
 階級闘争をすすめよう。

闘志昂揚横扫一窮二白 闘志をふるいおこして貧困・無智を一掃し、  
 東風浩蕩吹開万紫千紅 東風ゆたかに百花さきみだれる。

興無減資社会主義教育好  
 移風易俗無産階級品德高

プロレタリアートをおこし、ブルジョアジーをうちたおす社会主義教育  
 はすばらしい、

社会をよくするプロレタリアートの品格高し。

鉄臂銀鋤改變一窮二白 耕作にはげんで貧困・無智を变革し、  
 春風化雨送来万紫千紅 春風慈雨は百花撩乱をもたらす。

後継者の養成は中国の社会主義建設には欠くことのできない重要な点であり、  
 プロレタリア文化大革命の目的の一つでもあるわけである。このため、革命の  
 伝統を受けつぐ次代への期待は大きく、この後継者の養成が欠けたならば中国  
 の社会主義建設に重大な影響が生ずることはあきらかである。このために、さ  
 きにのべた革命伝統や、階級闘争が強調され、一貫した思想闘争に発展し、や  
 がて後述する「抓革命，促生産」へつながると考えられる。

当徹底革命派 徹底した革命派になろう、  
 做紅色接班人 立派な後継者になろう。

永続革命闘争史 革命の歴史つづけるために、  
 誓当紅色接班人 立派な後継者になることをちかう。

衛生はいずこの社会においても重視されなければならない。むかしの中国からは衛生を重んじようなどということは問題にもならなかったことである。

人人愛清潔 人びとは清潔をこのみ、  
 戸戸講衛生 家いえは衛生に注意する。

美化環境一年四季春常在  
 講究衛生千門万戸病無踪

環境をきれいにすれば、一年中きもちがよく、  
 衛生に注意すればどの家も病いはあとかたなし。

中国の革命は自分の国のみでなく、各国の闘争をも支持することを主張している。このため、国際連帯がつよくさげられるわけである。

徹底粉碎美国侵略陰謀 アメリカの侵略のたくらみを徹底的に粉碎し、  
 堅決支持民族解放運動 民族解放運動をだんこ支援しよう。

註(1) 『王傑日記』人民出版社1965年

(2) 1956年9月の八全大会で劉少奇は「……，わが国の社会主義と資本主義の間の勝負は、いまやすでに解決された」とのべ、階級闘争の消滅をのべた。

### 3

つぎに1966年8月、プロレタリア文化大革命が開始されたのちのものを紹介したい。資料は人民日報、光明日報の新聞写真、中国画報、人民中国の写真、および1967年秋の旅行中にメモしたものをふくんでいる。

抓革命            革命をつかみ、  
促生産            生産をうながす。

毫不利己            わが身をかえりみず、  
専門利人            もっぱら人のために。

毛沢東「紀念白求恩」のなかからの引用。

放眼世界            眼は世界に、  
胸懷祖国            心は祖国に。

抗日軍政大学制定の校訓。

団結緊張            団結，緊張，  
嚴肅活潑            嘉肅，活潑。

「三八作風」からの引用。391ページの註参照。

総路線万歳            総路線万歳、  
大躍進万歳            大躍進万歳。

跟着毛主席            毛主席につづき  
徹底開革命            革命を徹底してやろう。

虎踞竜盤今勝昔    虎がうずくまり竜よこたわるとて今は昔にまさる、  
天翻地覆慨而慷<sup>(1)</sup>    天をひるがえし地をくつがえさんとふるいたつ。

宜将剩勇追窮寇    よろしくあまれる勇をもちいて逃げる敵をおえ、  
不可沽名学霸王<sup>(2)</sup>    名をうらんとして霸王に学ぶべからず。

金猴奮起千鈞棒 金猴千鈞の棒をふるい、  
 玉宇澄清万里埃 玉宇万里のほこりをきよめたり。  
 (3)

四海翻騰雲水怒 四海翻騰し雲水怒り、  
 五洲震盪風雷激 五洲震盪して風雷激し。  
 (4)

万木霜天紅爛漫 万木は霜天に紅爛漫たり、  
 天兵怒氣冲霄漢 天兵怒気たかき天を冲く。  
 (5)

軍民團結如一人 軍民團結一人の如し、  
 試看天下誰能敵 この世にかなう者ありや。

うえの六つは毛沢東の詩句からとられたものであり、大字報専用掲示板の左右に書かれていることが多い。(1)、(2)は1946年4月の「南京占領」、(3)は1961年11月の「郭沫若同志に和す」、(4)は1963年1月の「満江紅」、(5)は1963年の「漁家傲」の詩からそれぞれとったものである。

大海航行靠舵手 大海を行く船は舵手にたより、  
 干革命靠毛沢東思想 革命をするには毛沢東思想にたよる。

これは林彪の作によるものである。なを、この対聯を織こんだ歌は現在広く大衆に愛唱されている。

翻身不忘共産党 解放されて共産党を忘れず、  
 幸福不忘毛主席 幸福のときに毛主席を忘れない。

中華人民共和国万歳 中華人民共和国万歳、  
 世界人民大團結万歳 世界人民大團結万歳。

これは天安門にも掲示されている。目にする頻度の高いもののひとつである。

横扫一切牛鬼蛇神　すべての妖怪変化を一掃し、  
 摧毁劉鄧社会基礎　劉鄧路線による社会基礎をうちくだこう。

無産階級專政万歳　プロレタリア独裁万歳、  
 人民戦争勝利万歳　人民戦争の勝利万歳。

偉大的領袖毛主席万歳　偉大なる領袖毛主席万歳、  
 偉大的中国共产党万歳　偉大なる中国共产党万歳。

毛主席是我們的最高統帥　毛主席はわれらの最高の統帥、  
 十六条是我們的行動綱領　十六条はわれらの行動の綱領。  
 十六条とは1966年8月8日発表のプロレタリア文化大革命についての指示をさす。

一切想着毛主席　すべて毛主席をおもい、  
 一切服従毛主席　すべて毛主席に従おう。

一切緊跟毛主席　すべては毛主席ならい、  
 一切為着毛主席　すべては毛主席のために。

聽毛主席話　毛主席の指示をきき、  
 跟共产党走　共产党とともにあゆもう。

発揚革命伝統　革命の伝統を発揚し、  
 争取更大光荣　より大きな栄光をかちとろう。

領導我們事業的核心力量是中国共产党

指導我們思想的理論基礎是馬克思列寧主義

われわれの事業を指導する核心的な力は中国共産党である。

われわれの思想を指導する理論的基礎はマルクスレーニン主義である。

毛沢東語録の最初のもの。歌にもなっている。

これらの対联と類似しているが可なり長文のものも認められ、二行から三行にわたる三十字、四十字にもおよぶものもある。たとえば、北京ホテル入口に掲示されているものは「全世界人民團結起来，打倒美帝国主義，保衛世界和平」(全世界の人民は團結して，アメリカ帝国主義を打倒し，世界の平和を守ろう)「全世界馬克思，列寧主義者團結起来，堅決反对現代修正主義。」(全世界のマルクス・レーニン主義者は團結して，現代修正主義に断乎反对しよう)また，人民公園(もと万寿山)の人口には「中国最堅決最熱烈地支持胡志明主席的戰鬪文告。中国準備承担最大民族犧牲支持越南人民戰勝美帝。」(中国はホーチミン主席の戰鬪文書をだんこととして最も熱烈に支持する。中国はいかなる犠牲をも恐れずベトナム人民がアメリカ帝国主義にうちかつことを支持する用意がある。)  
「中国七億人民是越南后方，中国遼闊国土是越南后方，中国……」中国七億の人民はベトナム后方基地である。中国の広大な国土はベトナムの後方基地である。中国は……)などというものである。このようなものの書き方は赤字に白字で書くものが一般化されているが，なかには赤地に黄色のものも見うけられる。

なお，横額用は従来のものは四字句のものばかりであったが，最近ではこれもまた自由のようである。たとえば「向党內一小撮走資派奪權，奪權」(党内のひとつまみの資本主義の道をあゆむ者から奪権しよう，奪権しよう)というもののや，「敬祝毛主席万寿無疆」(毛主席の長寿を祝う)，「戰無不勝的毛沢東思想万歳」(無敵の毛沢東思想万才)「高举毛沢東思想偉大紅旗」(毛沢東思想の偉大な赤旗を高くかかげよう)，「把無産階級文化大革命進行到底」(プロレタリア

文化大革命を徹底的にやりぬこう)というような型で、その意味を充分に示すようにしており、必ずしも四字句にとどめることはしていない。

以上のべたように伝統的な正月のお祝いの形式を現在にいかし、その内容も現代にマッチしたものを大衆伝達の一つ的手段にしているのは、中国独特（もちろん、台湾においてもこれと似た形式がある）のものと言うべきであろう。

以上最近あらわれた对联を雑然とられつしたが、これらから現在中国で進行中のプロレタリア文化大革命の状況を察知する手がかりが得られることと思う。

中国はこれら对联を活用して中国の社会主義建設をより一層発展させるために努力しているわけである。新聞雑誌を通じてそれらの对联を目にする機会はかなり多いわけだが、それらにより、中国の状況をかなり察知することができることはたしかなところである。この小論を中国理解の一助にして頂ければさいわいである。